講演「これからの管理栄養士・栄養士が活躍する未来へ」

講　師　大阪樟蔭女子大学大学院
人間科学研究科　人間栄養学専攻　臨床栄養学研究室
管理栄養士　井尻　吉信氏

地域医療の現状として ①身近に栄養食事指導が受けられる場所がない ②退院し自宅に戻った際、栄養管理計画が引き継がれず野放しになっている ③在宅訪問栄養食事指導ができる管理栄養士が少ない といった問題がある。

そこで必要となってくるのが「かかりつけ管理栄養士」の存在である。各科診療所に管理栄養士が配置されると、上記の点において、①いつでも栄養食事相談が受けられる②入院していた病院からの栄養管理情報の引き継ぎが可能になる③診療所医師とともに在宅訪問栄養食事指導の実施が可能になるといった問題解消に繋がる。

その実現に向けて、医療スタッフ、患者様、御家族様から信頼されることはもちろんのこと、医師からの信頼を得ることが鍵となる。では、どうしたら信頼を得られるのか。それは質の高い栄養食事指導を行うことである。必ずしも、1つの正解に向かって栄養面での目標を立てて、患者さんを“指導”していかなければいけないという訳ではない。一人ひとりに寄り添い、趣味の話や家族の話など、たくさん対話をして心を開いてもらうことで、その人の生き方を知り、それを尊重した“心ある栄養食事支援”をしていく。それが質の高い栄養食事指導となる。質の高い栄養食事指導を追求することで、患者様の身体や心に変化が起こり、医師の信頼に繋がる。

これからの時代、「かかりつけ管理栄養士」が必須の存在になることは間違いない。その普及の為に今私たちがするべきことは、新たな仕事を自ら創り、動きに動くことである。例えば、指導の継続が難しい世代にも介入が可能となるオンライン指導に挑戦する、地域の健康セミナーに参加したり企画をする、などが挙げられる。

その際、1人ではできることが限られてくるので、同志の繋がりが重要となる。

今、管理栄養士の世界を変えるための活動と啓発に努めることで、地域に認知され、「かかりつけ管理栄養士」が必要とされる地域医療の未来が拓ける。

（文責　医療　山添野々佳）

「スキルアップ研修会」に参加して

（福祉　田所　光）

初めに栄養士会の運営、管理栄養士・栄養士の社会的役割の講演があり、栄養士会がどのような組織なのか、これからの管理栄養士・栄養士のあり方についての話がありました。管理栄養士・栄養士は職場に同じ職種の方がいないため、業務で困ったことがあってもすぐに解決できないことが多いと感じています。これを解決し、自身の専門性を高めるためにも、今後も研修会に参加し新しい知識を学んでいきたいと思いました。

続いて大阪樟蔭女子大学大学院の井尻吉信先生からは、「これからの管理栄養士・栄養士が活躍する未来へ」というタイトルでクリニックで活躍される管理栄養士の話がありました。印象的だったのは、「医師の信頼を得ること」、「新たな仕事を自ら作ること」の二つです。

盆踊り大会に参加している患者さんのその時の写真を撮ってくる、患者さんの職場の同僚に昼食メニューのお願いをするといった、栄養面だけに囚われない患者さんに寄り添った目標も立てることで、患者さんの普段の様子を知ることができその結果、医師や他職種の方の信頼を得られ、自身のやりがいのも繋がることを学べました。また、新たな仕事やイベントを自ら作っていくことで、管理栄養士・栄養士のつながりはもちろん、イベントを通して地域の方々同士がつながるきっかけになった話はほんとに素敵なことだと思いました。現在の職場でも様々なイベントがあるため、利用者様同士がよりつながりが持てるような企画を作って行きたいと思います。

最後は、職域部会ごとの交流がありました。福祉施設では献立の立て方や他職種との関わりの悩みを共有し話し合いました。また、委託会社の方や学校給食の方のお話も聞くことができました。特に学校給食での食べる量に差がある子ども達への悩み・対策は初めて聞き驚くことが多く、とても興味深かったです。

今回の研修会で学んだことを一つでも実践できるよう、日々の業務を進めていきたいです。